

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立百舌鳥小学校
校長 川口和義

中学校区におけるめざす子ども像

○自分の考えを伝え合い、学びを深め、その知識を活用することができる子 ○互いに認め合い 協力し合う子 ○自他の体を大切にし 健やかでたくましい子

令和7年度 重点目標

一人ひとりが未来の創り手となる豊かな学びの実現 ～深い学びの実現と自尊感情の醸成で、未来を切り拓くもずっ子を育てる～

(1)「総合的な学力」の育成 (2) 友だちのよさを認め、自分を大切に育つ子の育成 (3) 体力の向上と健康的な生活習慣の確立 (4) 郷土百舌鳥を愛する子の育成

「確かな学び」の現状

去年度の研究授業では、ICTや資料の活用、話し合い、書くことなどを通して、児童の思いや考えを表現する力を育成してきた。教育アンケートの「授業中、自分の考えをペアやグループ・全体で伝えている」では、低学年で77.8%、高学年で78%の児童が肯定的に答えている。今年度も、重点目標「自分の思いや考えを表現する力の育成」に加えて、学年別の目標を設定する。系統立てた目標にすることで、より確実に重点目標の達成にせまられるのではないかと考える。

(低) 自分の考えをもつ。(中) 自分の考えを表現する様々な方法を知る。(高) 目的や意図に応じて方法を選び、伝える。

全国学力・学習状況調査において、(国語)「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」・「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる」問題で、課題がみられる。目的や意図に応じて内容を検討したり、書き表し方を工夫したりしながら、自分の思いや考えを書く力もつけていきたい。

「豊かな心・健やかな体」の現状

◇豊かな心◇

・学校教育アンケートの結果より、自己肯定感の評価は低学年の93.3%、高学年の85.3%が肯定評価をしている。

◇健やかな体◇

・学校教育アンケートの結果より、外遊びの肯定評価は低学年は84.5%、高学年は79.8%が肯定評価をしている。

どちらも昨年度より結果が向上している。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)			
								自己評価	学校関係者評価		
確かな学力	総合的な学力の育成	学習規律(学習準備、姿勢、発言、聞き方など)を身につける。	普段の授業や活動において全員参加をめざし、百舌鳥スタンダード(根底)に全職員が取り組む。	「百舌鳥スタンダード(根底)に取り組んでいる」肯定評価90%以上 学校評価アンケート(教職員)	学校教育アンケート(教職員)	2学期	○ 百舌鳥スタンダード(根底)を意識した授業を行うことができている。	◎	百舌鳥スタンダード(根底)や学習課題を意識した問題解決型の授業づくりができた。また、必ず自分の思いや考えを伝える時間をペアやグループ、全体などで設定することができた。(肯定評価93%)	◎	児童への学習規律の定着は概ね図られており、教職員の共通理解のもとで授業改善が進められていると評価できる。
		学習課題をつかみ、自分で考え、表現することができる。	学習課題を意識し、教材それぞれで何を教えるのかを明確にして授業を行う。 ●★自分の考えをペアや全体で伝える機会を確保する。	「課題意識」肯定評価95%以上(教職員) 「自分の考えを伝える」肯定評価75%以上(児童)	学校教育アンケート(教職員・児童)	2学期	○ 学習課題を学級で共有し、主体的な学習を狙って授業研究している。交流活動も活発になってきている。	○	児童は自分の思いや考えを伝える力がついてきており、伝え方もノートに書く・ICTを使用する・話すなど様々な方法を使うことができるようになった。(肯定評価74%)しかし、学習に関して自信がないのか意欲的でない様子も見られたので、来年度以降の研修のテーマを変えて、研修をすすめたい。	○	学習課題の明確化や交流活動に取り組み、児童が主体的に学習する姿が増えていることも確認できる。今後も継続して、より一層の授業研究の充実を期待したい。
		自分の考えだけでなく、友だちの考え、新たな気づきをふり返ることができる。	自分の思考の過程を整理し、深めるための構造的なノートづくりを意識して授業を行う。	「自分の考えを書かせる」肯定評価90%以上(教職員) 「ノートに自分の考えを書いている」肯定評価80%以上(児童)	学校教育アンケート(教職員・児童)	2学期	○ ノートを点検したり、紹介したりして、ノートに考えをしっかりと書くことができるようになってきている。	○	ノートの書き方を百舌鳥スタンダードで揃え、自分の思いや考えをノートに書くことで、自分の意見を整理し、友だちに伝えやすくなっている。(中、高学年肯定評価80%)また、書くことを焦点化し、書くこと・話すこと・聞くことを多様に使いながら授業を進めることで、思考を深めることもできた。	○	構造的なノートづくりが浸透し、中・高学年を中心に思考の整理や表現が進んでいることを評価する。引き続き、全学年で統一的な指導がされることで、
		学校での学習をふり返ったり、新たな課題を見つけたりする自主学習に取り組めるようにする。	自主学習ノートを全員が所持し、低・中・高学年ごとに取組例を示し、紹介や点検・評価を充実させる。	「進んで自学に取り組む」肯定評価75%以上(児童)	学校教育アンケート(児童)	2学期	○ 全学年で自主学習に取り組む、掲示をしたり点検・評価をしたりして意欲を高めている。	◎	ノートを掲示をしたり、点検・評価をしたりして目標に向けて取り組むことができた。(肯定評価76%)しかし、教師主導で行っており、自主性を育む取り組みになっていないと感じたため、子どもたちが自主的に学習に取り組むことができるよう、来年度以降の取り組み方は各学年で考えるようにする。	◎	さらに効果が高まると考える。今後も児童の自主性をより重視した取り組みを進めていってほしい。ICTを使うことのリスクもある。情報が正しいか正しくないかの判断もできるようにしてほしい。今後も教育にうまく活用していかれることを期待している。
		ICTを活用して、個別最適な学びをめざす。	1人1台端末を活用して情報活用能力を高める授業づくりを行う。	低学年:発表ノートで図や写真を入れて発表することができる 中学年:動画や写真を撮って発表ノートで伝えることができる 高学年:パワーポイントでスライドを作ることができる(肯定評価80%以上)	学校教育アンケート(児童)	2学期 年度末	○ 学年間・クラス間で使用の頻度は差があるが、目標に向けて取り組もうと意識できている。	◎	学年間・クラス間で使用の頻度の差があるものの、高学年については達成できた。(肯定評価83%)ICTを使用した授業について、よい取り組みを次年度以降に引き継ぎ、児童一人一人がICTを学習する手立ての一つとし、適切に使用できるように来年度以降もICT活用能力の育成を進めたい。	◎	
豊かな心・健やかな体	豊かな心の育成	・教育活動の中で、豊かな人間性を育成する。	児童一人一人の自己肯定感や自尊感情を醸成し、自他ともに価値を尊重する意欲、態度を育てる。	児童アンケート自己肯定感評価(肯定評価85%以上)	学校教育アンケート(児童)	2学期	○ 各クラス普段の声かけや学級づくりで自己肯定感や自尊感情の醸成を行っている。	◎	児童一人一人の自己肯定感や自尊感情を醸成し、自他ともに価値を尊重する意欲、態度を育てることができた。(肯定評価88%)	◎	日頃の声かけや学級づくりの成果が表れており、今後も継続して取り組まれることを期待する。学期ごとの生活アンケートを継続し、情報の共有や対応も適切に行われている。
		・いじめのない互いに寄り添い、理解しあう集団作りをめざす。	未然防止を目的とした生活アンケートは学期1回を基本として行い、情報収集し、共有する。各教科と連携し、心の醸成に取り組む。	保護者アンケート「学校が楽しい」(肯定評価90%以上)	学校教育アンケート(保護者)	2学期	○ 生活アンケートを継続して取り組み、子ども一人ひとりと話し、共有を行っている。	◎	未然防止を目的とした生活アンケートは学期1回を基本として行い、情報収集し、共有することができた。(肯定評価90%)	◎	児童理解の深化と未然防止に大きく寄与している点を高く評価する。
		・清掃活動を集中して行えるよう努力し、清潔な学校にする。	清掃活動に集中できるよう働きかける。身の回りの整理整頓の啓発を行う。	児童アンケート清掃活動評価(肯定評価85%以上)	学校教育アンケート(児童)	2学期	○ 清掃活動・整理整頓等継続して、啓発を行っている。	◎	各教科と連携し、心の醸成や清掃活動に集中できるよう働きかけ、身の回りの整理整頓の啓発を行うことができた。(肯定評価92%)	◎	
	健やかな体の育成	・年間安全計画に基づいた安全指導を行い、年間を通して健康で安全な生活をおくれるよう基本的な生活習慣をふり返る。	生活調べを通して、自分の生活を見直す。	児童アンケートによる肯定評価(肯定評価85%以上)	学校教育アンケート(児童)	各学期	○ 1・2学期の児童アンケート「意欲的に自分の生活習慣を振り返ることができた。」肯定評価88% 安全で健康な生活をおくれるよう意識できている。	◎	3学期の児童アンケート「意欲的に自分の生活習慣を振り返ることができた。」(肯定評価88%)1年を通して安全で健康な生活をおくれるように意識できた。	◎	児童が自ら生活習慣を見直す姿が見られ、安全安心の意識づけも継続されている。この意識が日常生活へ定着するよう、継続した指導を期待する。天候等の外的要因もあり目標値に達しなかった学年があったが、運動習慣の形成に向けた工夫が行われている点は評価できる。
・運動に親しむ環境を整え、体力を向上させる。		・体力向上のための取り組み ・冬季期間に心拍数を上げる運動を取り入れる ・体育指導の手引きに基づいた指導	児童アンケート「体を動かしているか」(肯定評価80%以上)	学校教育アンケート(児童)	2学期	○ 8・9月のWBGTが31を超える日が続き、体育、外遊びができる日が少なかった。10・11月は比較的多くの児童が外に行き遊んでいる	△	今年度低学年で肯定評価が78%、中学年の肯定評価は74%、高学年は66%で目標には到達できなかった。理由としては、外遊びに行ける日が限られたことと、今年度から晴れの日にトランプが解禁されたので、遊ぶ選択肢が増えたことだと考える。	○	遊びの選択肢増加も影響しているため、運動の機会確保に向けた校内環境整備や働きかけが望まれる。	
地域連携	郷土愛の育成	ホームページ更新や地域連携を通して「開かれた学校づくり」に取り組む。	学校ホームページ、校報等を活用し、学校教育活動の発信をすするとともに、地域行事への参加に努める。	学校ホームページの毎日更新。地域行事(百舌鳥八幡宮祭礼、陵南フェスタ、北区交流まつりなど)に参加する。	実践報告	毎月随時	○ 各学年、定期的にホームページの更新を行っている。地域行事にも可能な範囲で参加した。	◎	ホームページ・広報「もずっ子」を通じて、学校の様子を発信し続けてきた。中学校区で情報交換、課題の共有を図り合同研修を実施して3校での共通理解を深めることができた。(肯定評価69%)	◎	ホームページの継続的な更新、行事参加など「開かれた学校づくり」が進んでいることを評価する。
		中学校区での交流を通して、郷土百舌鳥を愛する児童を育成する。	中学校区での交流や合同研修を通して、情報交換、課題の共有、課題解決に向けての具体的な取組を行う。	教職員アンケート(肯定評価70%以上)	学校教育アンケート(教職員)	2学期	○ 中学校区で情報交換を図っている。夏には3校で合同研修を実施した。	○		○	校区全体での教育力向上に寄与する取り組みとして、引き続き継続されることを期待する。地域の防災訓練に子どもも発信で家庭を巻き込んでいきたい。

校長より(年度末) 本年度は、学習規律を見直し、児童の主体的な学びの充実をめざしてきました。今後はペア学習など話し合う機会を大切にしながら、ICTを活用した自身の学びとのバランスを考えた学習方法を追求し、誰もがわかる授業をめざしていこうと考えています。同時に、児童の学びの充実もむけて、家庭や地域も一層になって教育活動を進めていけるよう努めていきたいです。

学校関係者評価者から(年度末) 本年度は学習規律の定着や主体的な学びの進み、自己肯定感も向上した。地域連携も活発で学校全体の教育力が高まっている。一方で体力向上や学年差のある取り組みには今後の改善が望まれる。